

リハビリテーション医学

責任者・コーディネーター	リハビリテーション医学科 西村 行秀 教授				
担当講座・学科（分野）	リハビリテーション医学科				
担当教員	西村 行秀 教授、上條 義一郎 非常勤講師、中村 健 非常勤講師、大井 清文 客員教授、美津島 隆 非常勤講師、佐藤 義朝 非常勤講師				
対象学年	4	区分・時間数	講義	8コマ	12.0時間
期間	前期		演習	0コマ	0.0時間
			実習	0コマ	0.0時間

・学習方針（講義概要等）

リハビリテーションの治療の目的とするところは、①障害の克服、②機能の回復、③活動を育む、である。リハビリテーションは各臓器別専門診療科の治療に併用できるので、幅広い知識が必要となる。さらに療法士だけではなく、多くの職種の人々との協力、連携が必要となるため、コミュニケーション力とマネジメント力が必要となってくる。さらに急性期医療だけではなく、回復期、生活期医療においてもリハビリテーションの需要や期待は大きい。リハビリテーション医学とは臓器別診療ではなく対象者を一個人とし関わり全人的に対処し、対象者を細胞レベルから改善させる学問である。

・教育成果（アウトカム）

さまざまな障害を理解することで、リハビリテーション医学をとおして、その障害を克服し、機能を改善させ、活動性を育むことができるようになる。リハビリテーション医療である、理学療法、作業療法、言語療法、義肢装具療法、摂食・嚥下療法、薬物療法などを理解することで、適切なリハビリテーション医療について説明できる。

(ディプロマ・ポリシー： 1,2,3,4,5,6,7,8)

・到達目標（SBOs）

No.	項目
1	リハビリテーションの概要、その適応について説明できる。
2	リハビリテーション医療の中の理学療法、作業療法、言語聴覚療法などについて説明できる。
3	脳血管障害、脳外傷（高次脳機能障害も含む）の病態とリハビリテーションについて説明できる。
4	神経筋疾患の病態とリハビリテーションについて説明できる。
5	運動器（骨・関節、筋・神経）障害、切断や脊髄損傷の病態とリハビリテーションについて説明できる。
6	音声・言語障害および聴覚・平衡障害などコミュニケーション障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
7	摂食・嚥下障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
8	呼吸器疾患、心臓・循環器疾患や悪性腫瘍など内部障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
9	排尿、排便などの排泄障害の病態とリハビリテーションについて説明できる。
10	運動生理学やスポーツについて説明できる。
11	療法士、看護師など多職種との連携と協力の必要性について説明できる。

・講義場所

講義：西1-D講義室

・講義日程（各講義の詳細な講義内容、事前・事後学習内容、該当コアカリについてはwebシラバスに掲載）

区分	月日	時限	講座（学科）	担当教員	講義内容	到達目標番号
講義	5/29(水)	3	リハビリテーション医学科	西村 行秀 教授	リハビリテーション医学 総論	1,2,11
講義	5/29(水)	5	リハビリテーション医学科	西村 行秀 教授	リハビリテーション診断学	2,11
講義	5/30(木)	5	リハビリテーション医学科	美津島 隆 非常勤講師 (獨協医科大学リハビリテーション科学 講座 教授)	各論：運動器、脊髄損傷	5,9
講義	6/3(月)	3	リハビリテーション医学科	上條 義一郎 非常勤講師 (和歌山県立医科大学リハビリテーショ ン医学講座 准教授)	各論：運動生理・スポーツ 医学	10
講義	6/3(月)	4	リハビリテーション医学科	中村 健 非常勤講師 (横浜市立大学医学部リハビリテーショ ン科学講座 教授)	各論：内部障害、摂食嚥下 障害	7,8
講義	6/4(火)	5	リハビリテーション医学科	大井 清文 客員教授 (いわてリハビリテーションセンター 理事長)	各論：脳血管障害	3,6
講義	6/17(月)	3	リハビリテーション医学科	佐藤 義朝 非常勤講師 (いわてリハビリテーションセンター)	リハビリテーション治療学	1,2,11
講義	6/17(月)	4	リハビリテーション医学科	佐藤 義朝 非常勤講師 (いわてリハビリテーションセンター)	各論：神経筋疾患	4

・教科書・参考書等

区分	書籍名	著者名	発行所	発行年
教科書	最新リハビリテーション医学 3版	安保雅博ほか編	医歯薬出版	2016
推薦図書	リハビリテーション医学・医療 コアテキスト	日本リハビリテーション医学 学会監修	医学書院	2018
推薦図書	イラストと写真でわかる実践装具療法	久保俊一、田島文博 編集	金芳堂	2015

・成績評価方法

総括評価：試験成績により評価する。
 形成的評価：講義中に口頭試問や議論形式の評価を行い、学生にフィードバックする。授業参加態度についても評価する。

・特記事項・その他

<p>1. 各種リハビリテーションの概念 2. 中枢神経障害の運動リハビリテーション 3. 高次脳機能障害・神経疾患のリハビリテーション 4. 難聴・平衡障害と音声・言語障害のリハビリテーション 5. 視覚障害および低視力者のリハビリテーション 6. 精神疾患のリハビリテーション 7. 運動器疾患、神経障害のリハビリテーション 8. 呼吸器疾患のリハビリテーション 9. 心臓・循環器疾患のリハビリテーション 10. 消化器疾患のリハビリテーション 11. 腎・膀胱・排尿障害と性機能障害のリハビリテーション</p> <p>シラバスに記載されている事前学修内容および各回到達目標の内容について、教科書・レジメを用いて事前学修（予習・復習）を行うこと。各授業に対する事前学修の時間は最低30分を要する。本内容は全授業に対して該当するものとする。なお、適宜、講義・実習冒頭で事前学修内容の発表時間を設け、授業の中で試験やレポートを課す場合は、次回の授業で解説を行う。授業では、医学教育モデル・コア・カリキュラムの内容に留まらず、必要に応じて最新の医学研究成果を教示する。</p>
--

・教育資源

教科書・参考書、講義室、図書館

・授業に使用する機器・器具と使用目的

使用区分	機器・器具の名称	台数	使用目的
登録済の機器・器具はありません			